

# タケダ・ウェルビーイング・プログラム 2022 成果報告レポート

助成番号 22-1-2

プロジェクト名 入院・療養中の子ども達に ICT を使って音楽を届ける活動  
団体名 特定非営利活動法人 OnPal  
所在地 福岡県  
助成額 120万円  
設立年 2013年  
URL <http://onpal.org>



## （団体について）

特定非営利活動法人 OnPal は、身近に音楽を楽しむ機会を提供し、音楽が持つエネルギーによって元気を届けて、音楽あふれる心豊かなまちとなることを目的として 2013 年に設立しました。

主に入院中の子ども達にプロの音楽家が「音楽授業」や「コンサート」を無償で届ける活動を行っています。音楽家が子ども達に色々な楽器や音楽のことを教えるとともに、生の演奏と音楽家との会話を通じて、心を豊かにし、治療に立ち向かう意欲を高めることを目指しています。

またコロナ禍で病院訪問が難しくなった 2020 年から YouTube の「おんぱるチャンネル」を開始し、これまでに 24 作品をアップロードしました。2022 年からは、オンライン配信もスタートしています。

## （助成による活動と成果）

### 1. 「インターネットを活用した音楽プログラムの配信活動に関するアンケート調査」の実施

調査目的：コロナ感染症の流行後における、病院内の子ども達が音楽を学び、楽しむ環境についての実態を調査し、OnPal の活動の質の向上と、より多くの病院への活動展開を目的とする。

調査対象：256 病院（目標：200 病院）

回答者数：47 病院（目標：40 病院）

成果：コロナ禍で、コミュニケーションの機会などが失われている長期入院中の子ども達が、ICT の活用によって、音楽やアートの体験の機会に出会い、笑顔になり、心豊かに成長することを願って、今後の活動の充実を図るためにアンケート調査を実施しました。

このアンケートで多くの院内学級の現状や「おんぱるチャンネル」への現場からのご意見をいただくことができました。また、何より全国の院内学級に OnPal や「おんぱるチャンネル」のを知っていただくことができ、20 を超える院内学級に連絡ができるようになりました。

### 2. 「おんぱるチャンネル」の新たな方向性の検討

アンケート結果に基づき「おんぱるチャンネル」の新たな方向性についてまとめました。

#### ①おんぱるチャンネルに求められる2つの役割

Amusement（演奏家との出会い、音楽を楽しむ機会）及び Study（音楽教科書に沿って理解を深める）をベースに新たな作品づくりに取り組む。

## ②作品の時間と配信頻度

作品は20分以内で2カ月に1回程度を目指す。

## ③演出上の留意点

子ども同士の会話を引き出す演出や、HPを活用した書き込みコーナーの設置など双方向性を高めるための仕組みを検討する。

以上のような方針に基づき、3つの新しい作品を制作しました。

「サマーコンサート2023」「花火大会2023」「鍵盤ハーモニカの音楽授業」

特に、「鍵盤ハーモニカの音楽授業」は、アンケートで「小学校で子ども達が練習するのはリコーダーと鍵盤ハーモニカなので、この実技などの動画を是非配信してほしい」との意見を数件頂いたことから制作したものです。

## 3. オンライン配信

助成によって、オンライン配信ができるOnPalのスタジオを構築したことで、アート授業の配信もできるようになり、以下のオンライン配信活動を行いました。

2022年10月16日 「みつまたアート」のオンライン授業

九州大学病院 こども病院

2023年5月24日 チェロ・コントラバスのオンライン音楽授業

九州大学病院 こども病院

2023年6月30日 チェロ・コントラバスのオンライン音楽授業

愛知県 大府特別支援学校（あいち小児保健医療総合センター内）

福井県 福井東特別支援学校五領分教室（福井大学医学部付属病院内）

※アンケートによってつながりができた、遠方の2つの院内学級にも音楽授業を届けました。

### （残された課題、新たな課題）

「おんぱるチャンネル」については、子ども達との対話を重視した内容づくり、ホームページとの連携による双方向性の実現などに取り組み、現在の登録者数80人の倍増を目指したいと考えています。

オンライン配信については、全国どこへでも配信できることや、教室だけでなく、病室や自宅療養中でも参加できる強みを生かして、コロナ後もできるだけ多くの院内学級や病気の子ども達に、展開していきたいと考えています。

将来的には、配信日を設定して、アドレスやパスコードを公開することで、病気の子ども達がどこからでも自由に楽しむことができるシステムなどができれば良いと考えてします。

### （活動の背景・社会的課題）（団体からのメッセージ）

一般的な社会では、コロナ感染症が5類になったことで、コロナ前の日常が取り戻されつつありますが、重い病気の子ども達が入院している病院では、ボランティア活動の受入れは多くの病院でまだまだ先のことになりそうです。

心と体の成長に最も大切な時期を、入退院を繰り返しながら病院で過ごす子ども達は、学校の友達とのコミュニケーションの機会も限られ、楽しい運動会や遠足などの行事にも参加できません。

OnPalでは、音楽やアートを通じて、子ども達が非日常的なスペシャルな時間を楽しむことで、

豊かな感性を育み、また辛い治療に立ち向かう意欲を高めてほしいと考えています。

このことは、本来は病院がもっと真剣に取り組むべき課題だと考えていますが、日本の病院では治療は素晴らしい進歩を見せているのに反して、心のケアについてはとても遅れていると感じています。

そこで OnPal では、今後も助成、寄付、協賛など多くの善意をプロの音楽家やアーティストによるボランティア活動に変えて、子ども達に届けていきたいと考えています。

以上